

# 深イ～話！

No.69

大阪大学医学部の先生で玉井克人さんという方がいます。

玉井医師は「表皮水泡症(ひょうひすいほうしょう)」の専門家で、この病気は全国で数百名ぐらいの難病中の難病といわれています。

通常、私たちの皮膚は三層から成っていて、それがくっついているのですが、「表皮水泡症」はそれが不十分で、夜、寝返りを打つだけで、皮膚がずれて破れてしまう。

ですから、いつも水泡ができるので、それを一つひとつ専用の針で潰し、軟膏を塗らねばならないそうです。



これを朝夕2回やるんです。そういう難病です。

玉井医師はこの研究と治療をずっと続けてきて、信じられない現象に気づくんですね。

それは、この難病を背負っている子供たちが一人の例外もなく、いつもみんな笑顔で実に明るくというのです。

あれだけの難病、しかも毎日激痛と闘っている。

いつ治るかも分からないのに、なぜこんなにも明るく、逆にこちらが癒されるような笑顔を見せてくれるのか、不思議でしよがなかつた。

ところが、その理由が分かつたそうです。

それは、母と子の触れ合いによって活性化される「スキンシップ遺伝子」の働きなのだということです。

要するに彼らは生まれた瞬間から、毎日毎日、朝夕2回、母が水泡を潰して、全身に手のひらで軟膏を塗ってやるでしょう。

その母の手のひらが遺伝子に働きかけ、情動の発達を促して、あの優しい笑顔を生み出していたというのです。

それを玉井医師は「スキンシップ遺伝子」と呼ぶのです。

私はこの玉井医師のレポートを読んだとき、大変感動しました。

難病やハンディという大変な逆境を背負っていても、人を癒し、明るく世の中を生きる力を生み出すのは、母の手のひらなんだと。

見に見えぬ母の愛情には、それだけの力を与えることが科学でも証明されたということです。

占部賢志(中村学園大学教授)